

# 北海道生団連 第6回会合 開催

10月24日(金)北海道生団連 第6回会合を開催いたしました。

北海道生団連の会員企業・団体様より11名の方々にご出席いただき、食料安全保障をテーマに、活発な議論を行うことができました。



▲渡辺会長  
(公益社団法人札幌消費者協会 会長)



▲熊谷専務理事



▲阿南会長

## 【議論のテーマ】

### 1.あるべき食料安全保障の指標とは？

- ・令和の米騒動や過去の食料危機を振り返り、どう評価できるか
- ・国際的な食料問題を見据え、国内の指標に限界はないか

### 2.生活者にとっての“食料安全保障”とは？

- ・供給力(自給率・輸出)以外の観点で必要な評価項目は
- ・国際比較の必要性について

## 【調査報告】

### 1.令和の米騒動について

- ・要因の振り返り
- ・過去の食料危機との比較

### 2.食料安全保障の指標について

- ・食料自給率について(設定理由やKPI体系について)
- ・世界各国の食料安全保障の指標について(指標の国際比較)
- ・世界食料安全保障指数(GFSI)について

## 【出席者からのご意見】(一部抜粋)

- 食料自給率を上げておかないと、いざ輸入が途絶えた場合に、自衛隊などの活動が困難となり国の安全保障を脅かしかねないので、安定的な自給を目指すという意味で自給率の向上を目指すのは悪い目標ではないと考える。
- 指標について、自給率38%だと悪いのか、一方カナダの177%だと安心なのか、その点について国からここまで行けば大丈夫、という指標を出してもらうことが良い。
- 他国の指標の一つに「食料不安世帯率」がある。この指標を用いて消費者にアピールすれば、不安世帯数が少なくなった事実が、企業の努力を消費者が認識するきっかけとなり、推しやファンになって消費者も一緒に歩んで行こうといった形になっていくのではない。
- 家庭の食料不安世帯率については、価格の問題が最も関係が強いと感じている。そのため食品の価格に関する何らかの指標があってもいいのではないかと。個人はエンゲル係数があるが、その国家版があるとシグナルが分かりやすい。